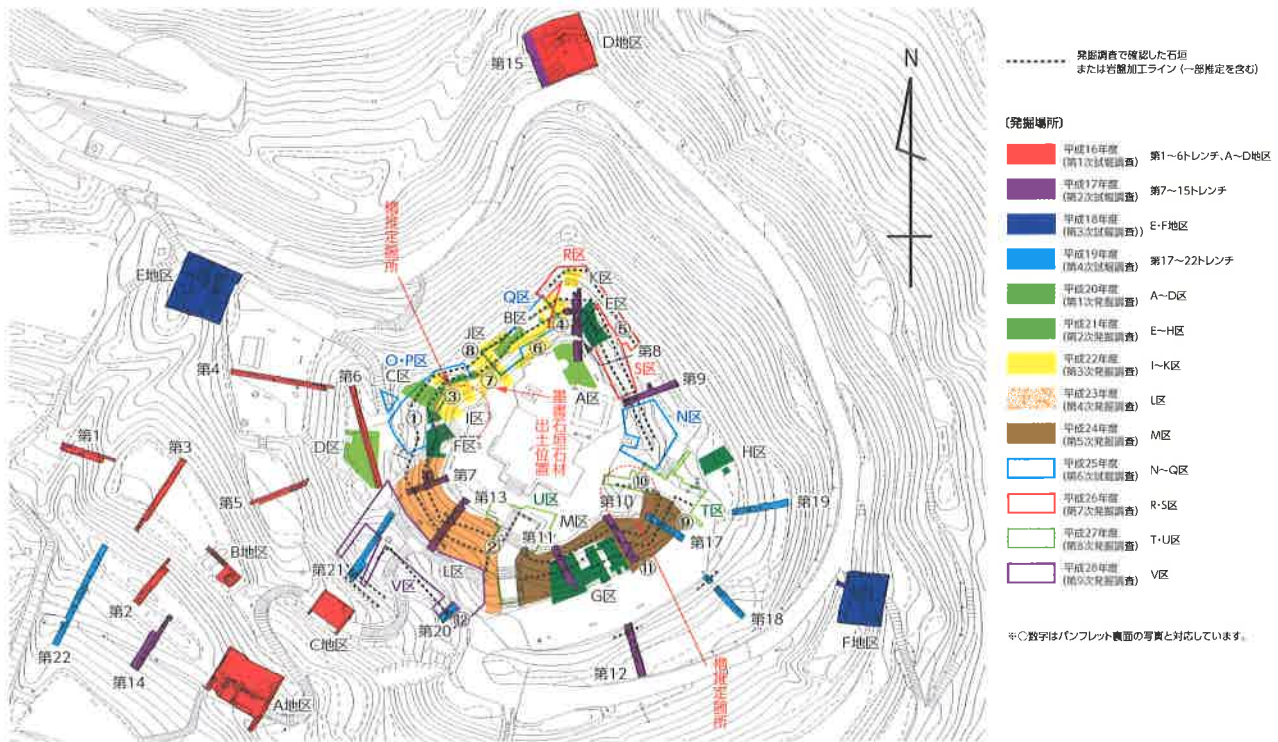


◆発掘調査場所と調査概要（主郭地区）



調査目的	調査地点（調査期間）	調査面積 (㎡)	調査概要
主郭地区の整備に伴う発掘調査	第1次試掘調査 〔平成16年10月～平成17年3月〕	660	・永祿期の遺構として、曲輪の構築状況、道の端に石積みがなされた大手道などを確認。 ・天正期の改修により土塁、礎等が築かれた状況を確認。
	第2次試掘調査 〔平成17年7月～平成17年10月〕	330	・永祿期の遺構として、主郭下法面とさらに1段下の法面に築かれた石垣を確認。 ・主郭周囲の石垣は2段の段築がなされ、一部では石を積む代わりに岩盤を加工している状況が判明。
	第3次試掘調査 〔平成19年11月～平成19年3月〕	390	・建物や園路設置等による後世の変更の影響により、遺構の残りが良くない部分が多い状況を確認。
	第4次試掘調査 〔平成20年2月～平成20年3月〕	170	・第2次試掘調査で確認した石垣の分布をさらに確認。 ・主郭下より一段下の石垣が大手道の両側にも築かれていたことが確認。
	第1次発掘調査 〔平成19年12月～平成21年3月〕	300	・主郭の一部と主郭西側一段下の曲輪003で調査を行ったが、建物跡は確認されなかった。 ・主郭西側下の法面の石垣の状況を確認。
	第2次発掘調査 〔平成21年12月～平成22年3月〕	284	・主郭北側法面では2段の石垣を確認。 ・主郭西側斜面の、現在は園路として階段が設けられている下で石垣が確認され、本来はこの部分に通路はなかったことが判明。
	第3次発掘調査 〔平成22年11月～平成23年3月〕	210	・主郭北側～北西側下斜面に築かれた2段の石垣を確認し、上段石垣の裏込石層や曲輪の築造状況などを確認。 ・主郭北側下の曲輪よりさらに下において、3段目にあたる石垣を確認。 ・黒書石垣石材が出土。
	第4次発掘調査 〔平成23年11月～平成24年3月〕	400	・主郭南側法面に築かれた石垣の状況を確認。 ・上下2段の石垣の間に築かれた平坦面には、玉砂利が敷かれていたことを確認。 ・石垣前面に2基の柱穴が確認され、建物があった可能性が出てきた。 ・主郭の入口付近に方形の花崗岩巨石が置かれていたことが判明。
	第5次発掘調査 〔平成24年9月～平成25年3月〕	274.5	・主郭南側法面に築かれた石垣の状況を確認。上下2段の石垣を確認したが、下段石垣では隅角石1か所が残っており、そこは算木積みではないことが判明。
第6次発掘調査 〔平成25年11月～平成26年3月〕	320	・主郭の東側斜面で、主郭の永祿期の遺構面と推定される黒色造成土と石垣の痕跡、岩盤加工の痕跡を確認。 ・主郭の北西側斜面に築かれた上下2段の石垣と、下段の石垣前面で玉礫と石拵状の石組み1基を確認。 ・主郭北西側張り出部の下段石垣下付近で、土師質土器や輸入陶磁器片等の集積を確認。	
第7次発掘調査 〔平成26年11月～平成27年3月〕	260	26年度より、上段石垣を石垣I、下段石垣を石垣II、3段目の石垣を石垣IIIとする。 ・主郭の北～東側斜面で石垣I～IIIの3段の石垣と曲輪を確認。従来、主郭では石垣IIが屈曲を繰り返しながら廻ることが推定されていたが、さらにその下段に石垣IIIが築かれ、主郭一段下の曲輪051の平坦面を画しながら主郭を取り巻く、新たな石垣プランを推定する手がかりが得られた。 ・石垣IIでは、石垣の崩落を防ぐためと思われる地盤の補強に伴う土坑1基を確認。 ・石垣IIIは腰巻石垣であり、花崗岩の搬入石材が多用されていることが判明。	
第8次発掘調査 〔平成27年8月～平成28年3月〕	327	・主郭に至る2箇所出入口（虎口）がそれぞれ大手と脇手の虎口であることとその構造を同時に確認。 ・大手虎口は石垣によって主郭内部へと誘導する構造を、脇手虎口では門の可能性のある礎石、石組側溝を確認。	
第9次発掘調査 〔平成28年11月～平成29年3月〕	388	・主郭南側斜面及び大手道の一部で石垣と通路の一部を確認。 ・調査区西側で、信長築城時から現代までの土層堆積状況を確認。	